

【書評】

土屋 巖・青木宣治・落合盛夫・河村 武・倉 嶋 厚 著

アフリカの気候——世界気候誌第2巻——

古今書院 1972, 637 ページ, 10,000 円

世界気候誌第1巻として「アジアの気候」が1964年に刊行された。それに続く第2巻として、「アフリカの気候」が今回でた。この文字通りの最近の気候学書の“圧巻”である本書を手にして感じることは、わが国の気候学界とそれをとりまく条件の進歩である。一時代前ならば、このような書物は、横文字の輸入品しかなかった。日本では書こうとする人も居なければ、刊行しようとする出版社もなかった。もちろん本書がやすやすと生れたわけではないことはわかっている。数々の困難をのり越えて、ここに至った著者らと出版元の異常な努力の結晶であることは言うまでもない。それにしても、評者は本書が刊行されたことがわがことのように嬉しい。

その理由は次の通りである。(1) アフリカ大陸という、日本からは遠い、日本人との関係がこれまで最も弱かった地域を取り扱っているにもかかわらず、高度の内容の大著であること。いわゆる経済効果を無視した出版であること。(2) 日本人の気候学者によるこの大陸の気候研究はこれまで皆無に近かったが、外国人による業績を日本語で集大成したこと。つまりこれまでの日本の学風を一步でていること。(3) 気候記述の部分の他に、気候資料の解説があり、さらに本書の3分の2のページを占める詳しい気候表がついていること。などである。

もちろん注文がないわけではない。1～2を記すと、(1) 戦後の文献はよくあがっているが、戦前のものでも古典的価値のあるものは引いた方がよいのではないか。(2) 引用した図には原著者名を入れるべきであろう。本書が国際的価値を持つための必要条件であろう。(3) 固

有名詞はなるべく現地読みに近いカナで表現した方がよからう。たとえば p. 19 の人名ウォルターはワルター(またはヴァルター)、p. 41 の人名ベレンガーはベランジェ、p. 42 の風の名リベッショはリベッチオ、風の名バルドラックはバルドラツ、p. 148～9 のバーグウィンドはベルクウィントがよくはなからうか。(4) 1～2の誤りの訂正。たとえば上記 p. 42 の局地風バルドラツの解説は誤りで、p. 43 の図に位置が記入してあるように、バルダル川に沿って吹き下りるマケドニアにおける北西よりの風である。(5) 気候資料については詳しいが、気候図もあげて欲しかった。たとえば、B. W. Thompson の本格的なものはあがっているが、これ以外にもあろう。International Atlas of West Africa (1968) の中の気候図は、枚数は少ないが、西アフリカに関してはぜひ紹介されるべきであろう。

本書の記述の方法は、総観気候学的・動気候学的である。この点、J. F. Griffiths が編集した“Climate of Africa” (1972) より学問的には気象学に、また応用的には航空事業、その他実際面の利用に役立つと思われる。また、ソ連からでた A. V. Lebedev の同名の書物 (1970) もデータは豊富であるが、機能的な記述という点では本書の足元にも及ばないと思う。本書をもって、日本も欧米諸国とならんでアフリカの気候研究の仲間入りを果たしたと言ってよからう。そして、日本の気候学の歴史において幾つかの金字塔を建てたことは間違いのない。

(吉野正敏)